

【26用語】

仕立便（したてびん）…顧客の依頼で臨時に遞送する急行便のこと

駅遞掛（えきていがかり）…明治初期に郵便事務を統括した係

戸長役場（こちようやくば）…明治初期に公選で町村に置かれた戸長が行政事務などを行う役所

窟口（くつこう）…古墳の石室の入り口

間数（けんすう）…建物などの間口の広さ

入用（にゆうよう・いりよう）…用を足すのに必要なこと、必要な費用、経

費、出費

サトウ（アーネスト・サトウ）…イギリスの外交官、幕末～明治期に通訳や公使として日本に滞在し、群馬県内にも数回訪れ大室古墳群の現地調査も実施、日本研究の著作もある

【26解説】

明治期行政文書の中に「古書古器物書類」という簿冊があり、その最初に前橋大室の前二子古墳に関する文書が綴じられている。内容は明治十一年（一八七八）に地元住民が発見し、石室内部の様子がそのまま残っていたことから宮内省への報告や係官の派遣、博物館との交信のことなどを記している。

この古墳の発見は当時大きな話題となり、同十三年三月七日には英国公使館のアーネスト・サトウが来県して現地視察を行い、のち詳細な計測値、スケッチ、考察を加えて公表したことで知られている。本文書は、サトウからの照会をうけ本県庶務課が地元の荒口村戸長役場あてに発した封書であり、大室古墳群（前二子・中二子・後二子古墳）の石室内部や古墳周囲の間数を实地計測し、至急報告するよう依頼したものである。